

[B5]
動的割り当て

Copyright © 2020-2024, by Takeshi Kawabata

メモリ領域の動的割り当て

- 使用するメモリ領域を、プログラムの実行中にOSから借りたり返却したりできる
- (アドレス)=(型 *)malloc(Byte数);
 - OSから指定バイト数のメモリ領域を借りる
 - 使用できるメモリ領域のアドレスを貰う
- a[3]=123;
 - 間接アドレッシングを用いてOSのメモリ領域にアクセス
 - 普通の配列と同じように読み書きできる
- free(アドレス);
 - 借りたメモリ領域は使い終わったら「必ず」返す

malloc()

```
#include <stdio.h>
#include <stdlib.h>
int main(void)
{
    int *a;

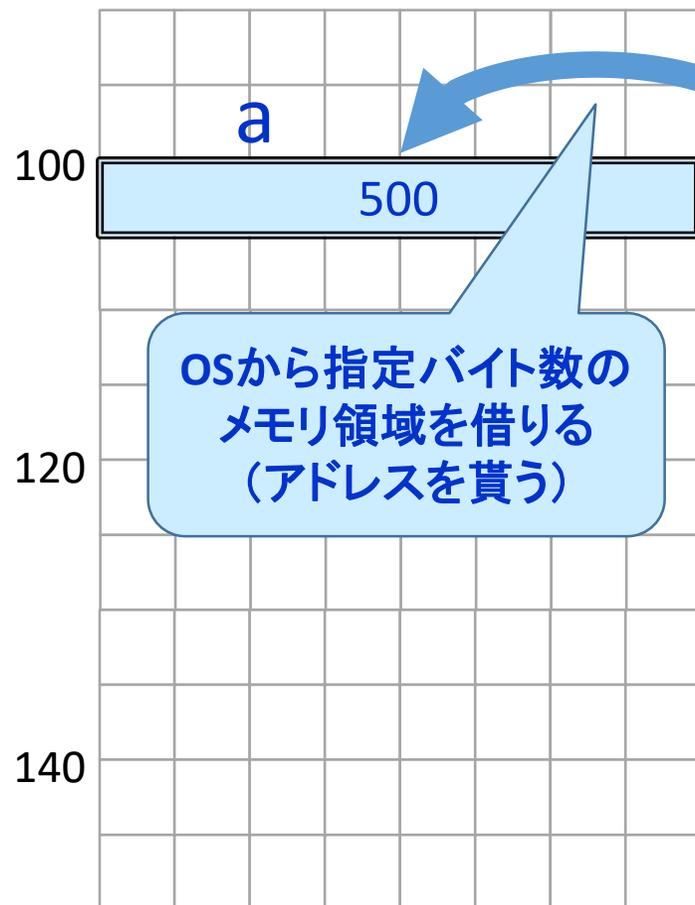
    a = (int *)malloc(sizeof(int)*5);

    a[3] = 123;

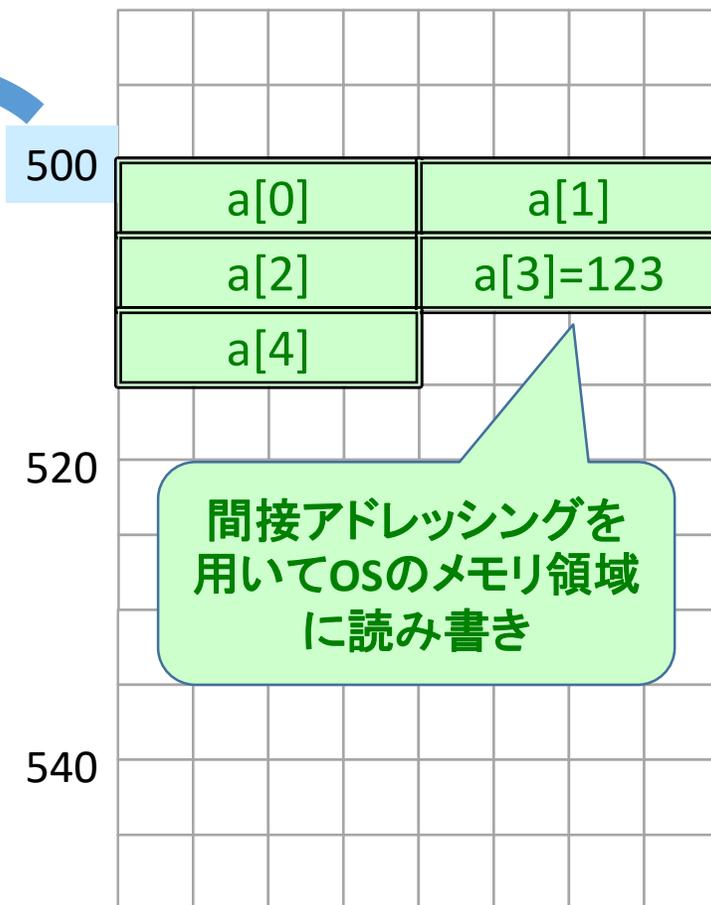
    free(a);
    a = NULL;

    return 0;
}
```

プログラムのメモリ



オペレーティングシステムのヒープ領域



free()

```
#include <stdio.h>
#include <stdlib.h>
int main(void)
{
    int *a;

    a = (int *)malloc(sizeof(int)*5);

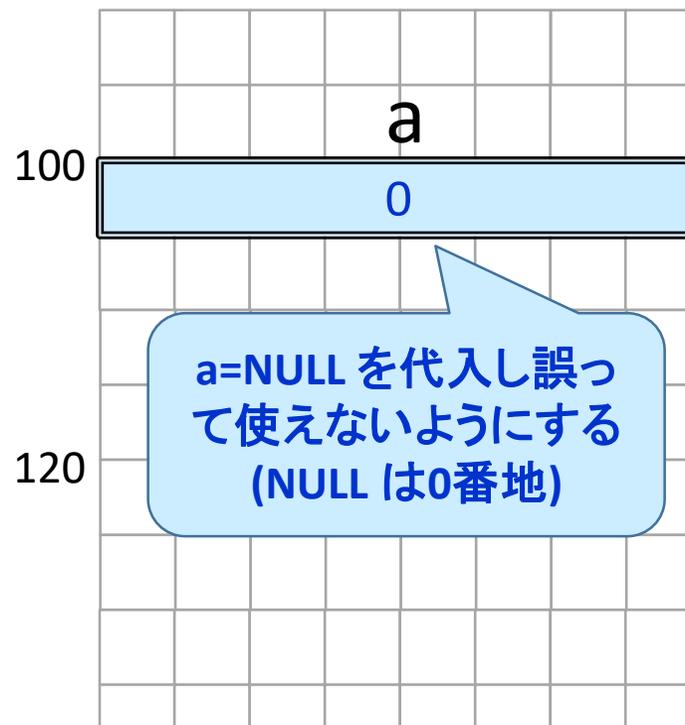
    a[3] = 123;

    free(a);
    a = NULL;

    return 0;
}
```

借りたメモリ領域
は使い終わったら
「必ず」返す

プログラムのメモリ



オペレーティングシステムのヒープ領域



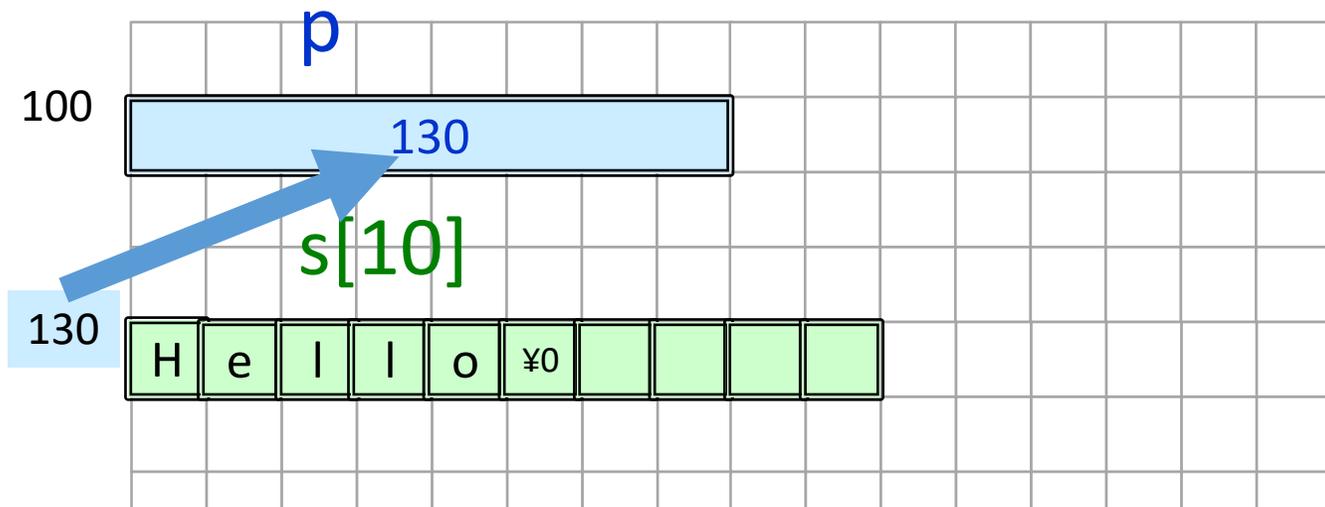
これを怠ると「メモリーリーク」が起きてサービス障害の原因に

ポインタと矢印表現

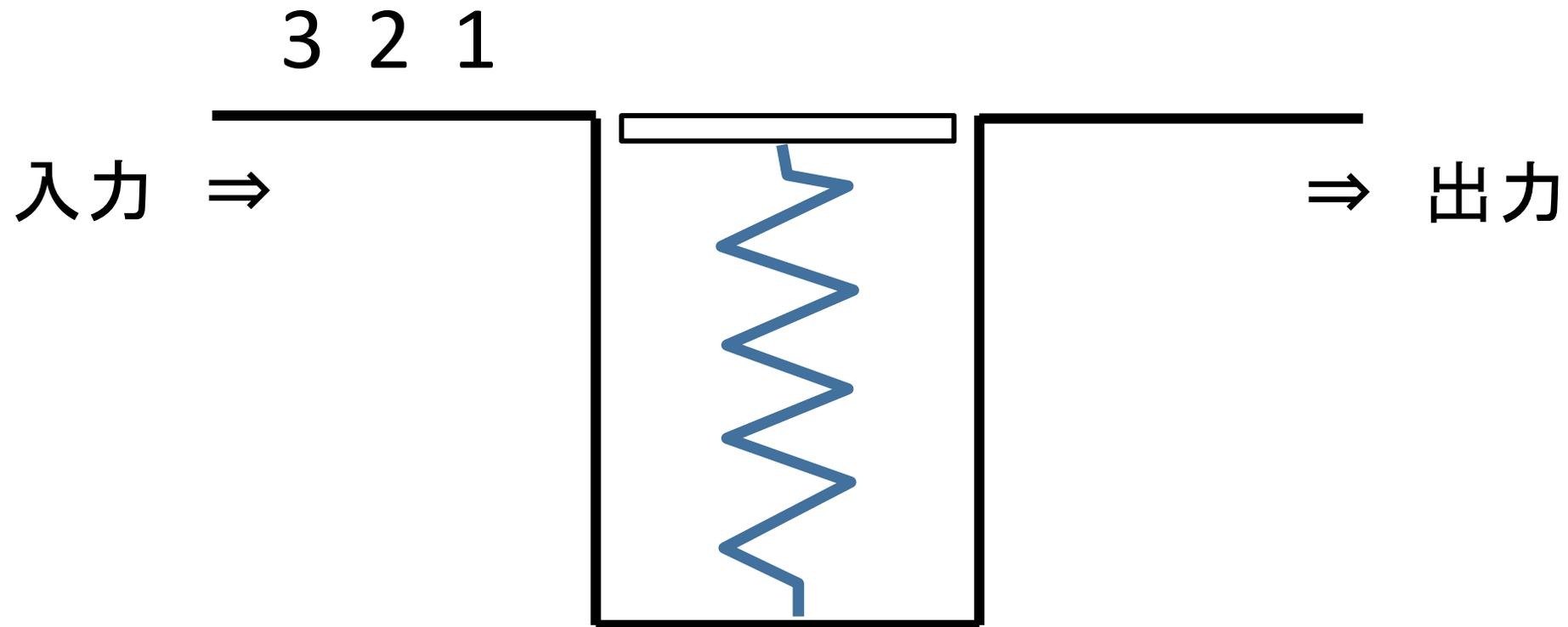
```
#include <stdio.h>
#include <string.h>
int main(void)
{
    char *p, s[10];
    p = s;
    strcpy(s, " Hello" );
    return 0;
}
```

ポインタ p に配列 s[] のアドレスが格納されている状態を、右図のように矢印で表現する

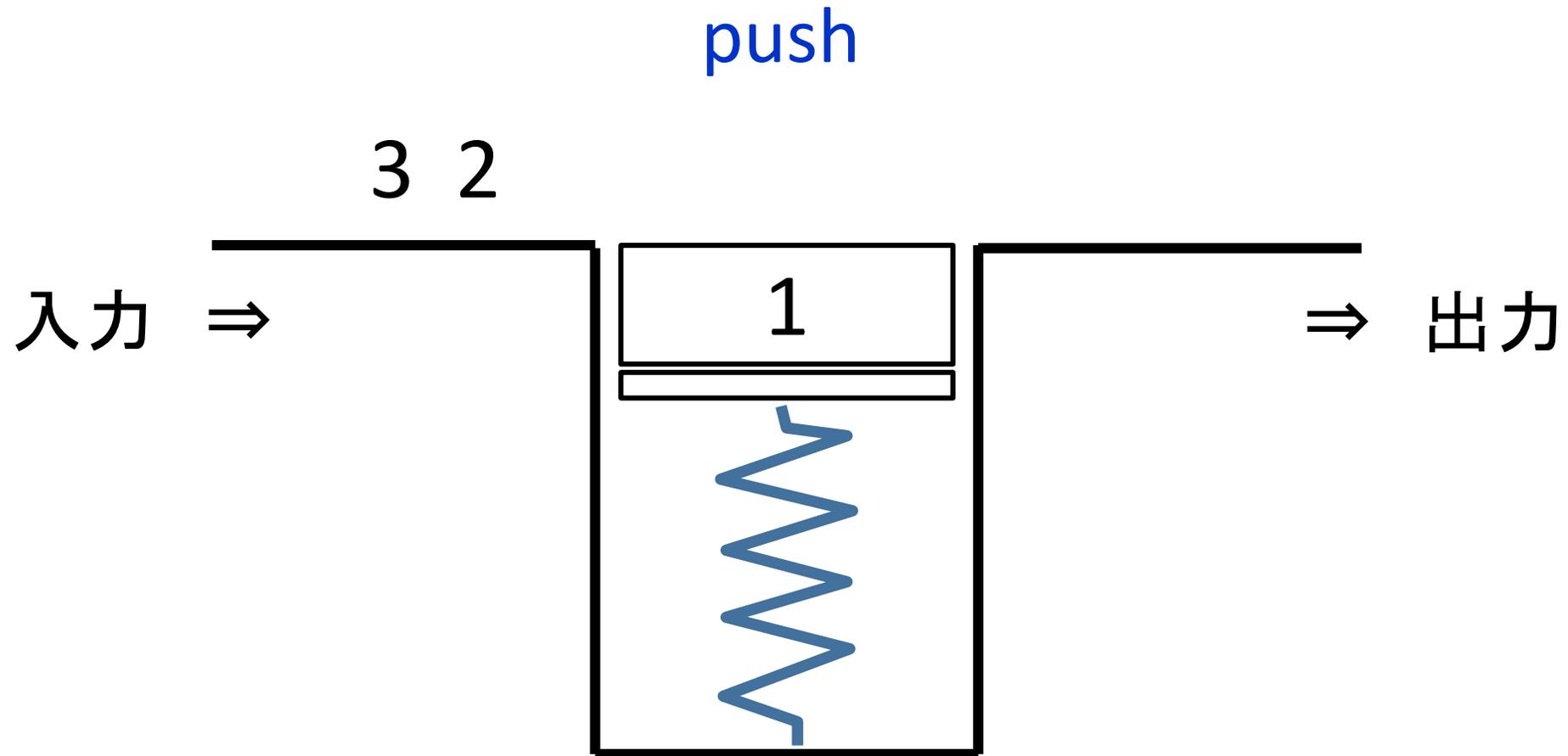
メモリ(記憶素子)



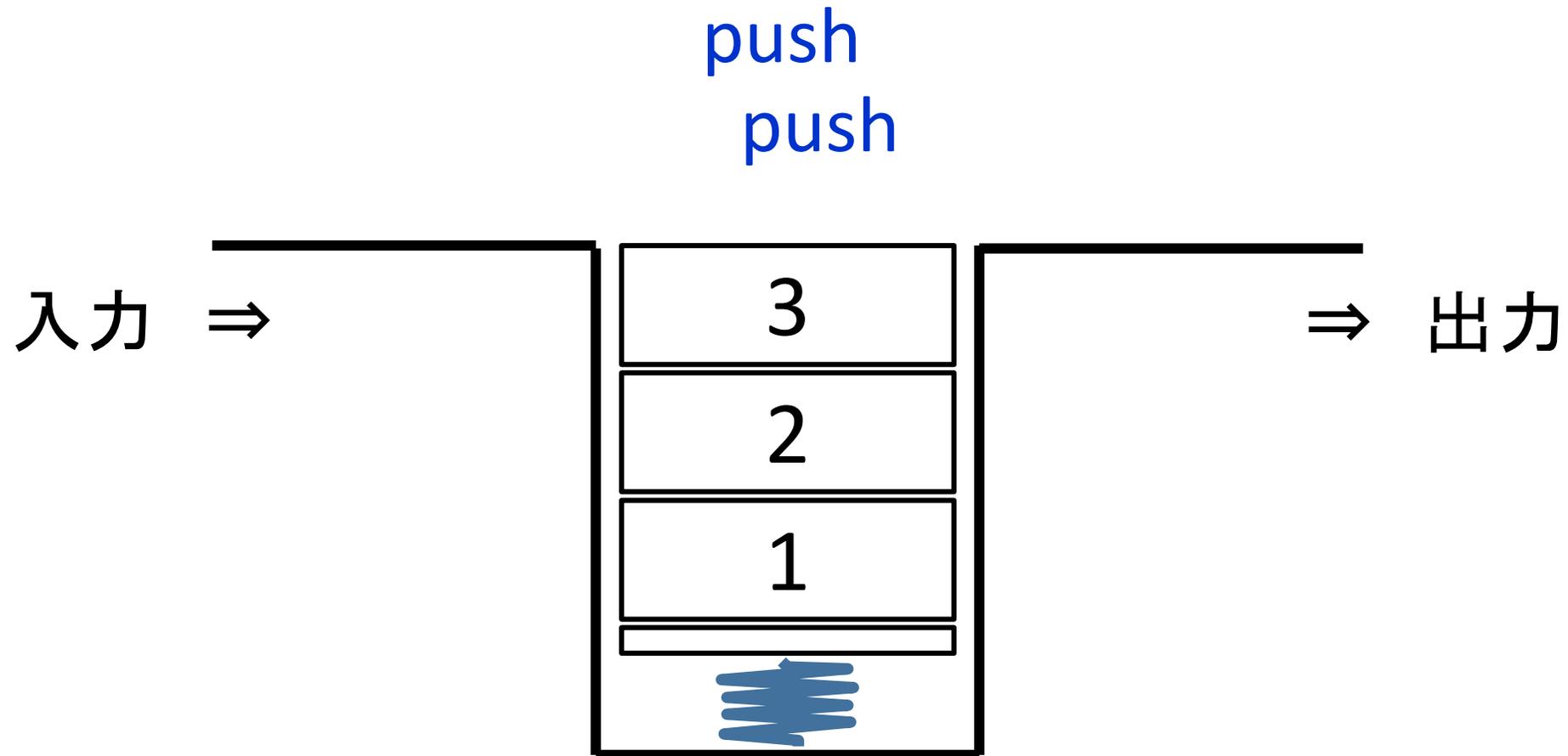
データ構造「スタック」



データ構造「スタック」

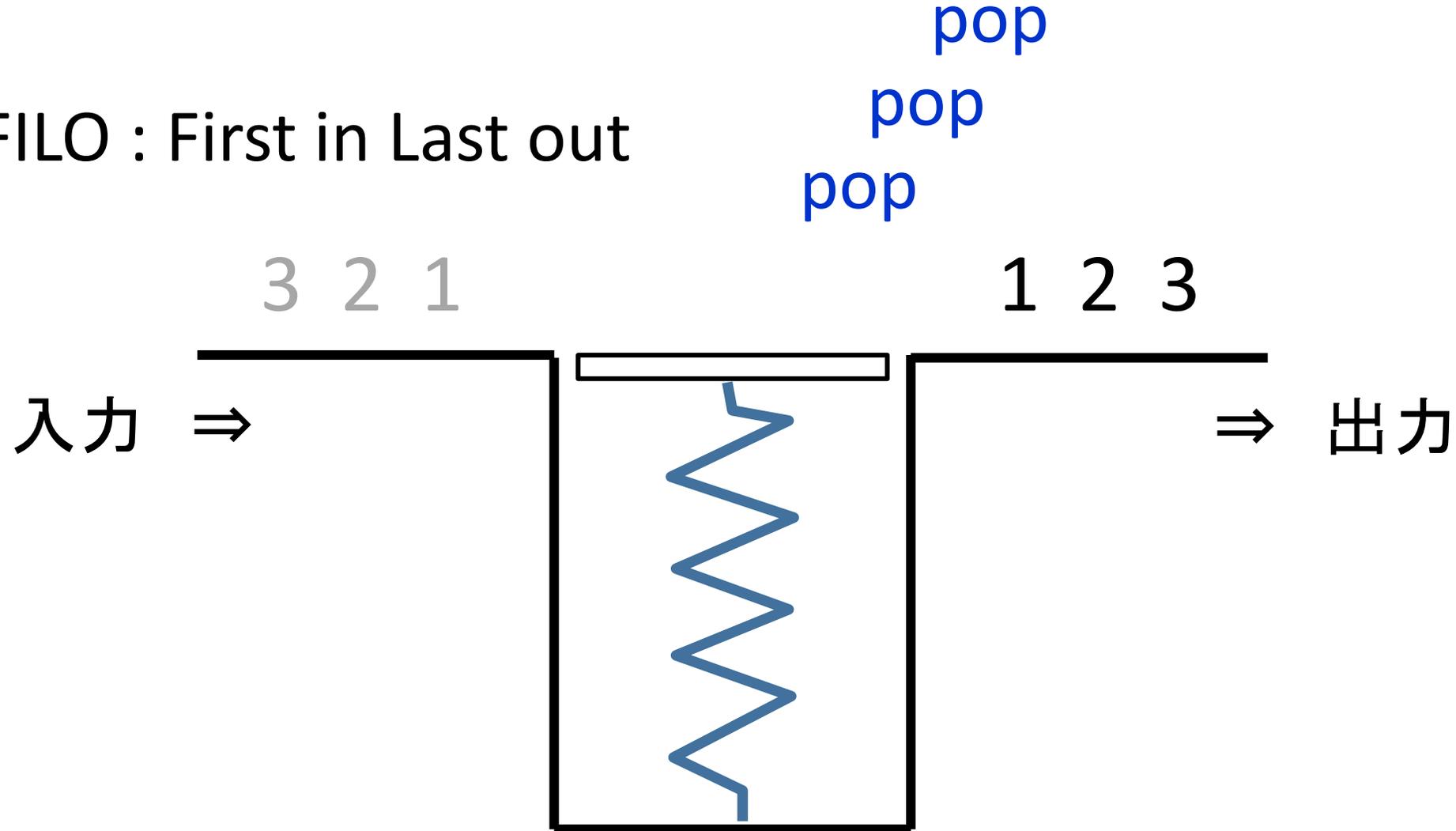


データ構造「スタック」



データ構造「スタック」

- FILO : First in Last out



スタックとメモリ領域の動的割り当て

- スタックの深さ(サイズ)を実行時に指定したい
- `istack_t *istack_new(int size);`
 - この中で `malloc()` し、スタック構造体とデータ領域のメモリを確保
- `void istack_delete(istack_t *);`
 - この中で `free()` し、データ領域とスタック構造体のメモリを解放（順番に注意）